



男女共同参画広報紙
じょうそう

joso

February 2022

No.12

● 目次 ●

- 男女共同参画講演会を開催 …2 ページ
- 男女共同参画講演会参加者の声
男女共同参画推進事業 …3 ページ
- 女性団体じょうそう事業委員会
女性相談のお知らせ …4 ページ



①



②



①-2



②-2

「デートDV防止啓発講座をオンライン開催」

①水海道第二高等学校にて 講師：特定非営利活動法人ウィメンズネット「らいず」 錦織氏
②石下紫峰高等学校にて 講師：特定非営利活動法人ウィメンズネット「らいず」 中条氏

多様性を尊重する社会を目指して



常総市長 神達 岳志

日頃より市民の皆様には、男女共同参画行政をはじめ、市政へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行が続いていることにより、社会は急激に変化し、男女共同参画社会の推進にも大きな影響を及ぼしています。経済や生活への直接的な影響のみならず、女性の非正規雇用労働者の減少など、特に女性に対する深刻な影響が表面化しました。この根底には、平時においての社会課題が、コロナ下により顕著化したことがあると考えます。

地域の活性化と男女共同参画の推進は密接に関連しており、男女共同参画の好循環を生み出していくことが活力ある社会を築いていくためには必要です。そのためには性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することのできる男女共同参画社会を形成することがこれまで以上に重要であると考え、より一層の推進を図ってまいります。

一人ひとりが尊重される社会の実現に向け、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

過去の紙面は、市HPにてご覧ください。



男女共同参画 講演会を開催

テーマ
「アンコンシャスバイアスと
ダイバーシティ」
誰もが暮らしやすい地域づくり
令和3年11月14日(日)
YouTube 限定公開

スーパーの総菜コーナーで幼児連れの女性がポテトサラダくらい作つたらどうだ」と言われたことがネット上で議論を呼んだ「ポテトサラダ論争」。2021年の各国の経済・教育・健康・政治の4分野の男女格差を測る指数が156か国中120位だったという「ジェンダーギャップ指数120位の衝撃」。そして、女性がたくさん入っている理事会は時間がかかるなどの発言で問題となった「オリンピック組織委員会会長発言」の身近な話題3つについて解説し、まず社会的・文化的につくられる性別「ジェンダー」ですべてを決めつけてしまう社会は、男性も女性も非常に生きにくい社会ではないかとの問題提起を行いました。

アンコンシャスバイアスとは「無意識の偏見」であり、育つ環境や所属する集団の中で知らず知らずのうちにできた固定観念、決めつけのことで、「男のくせに」「女のくせに」「夫は外で働き、妻は家を守るもの」といった固定的性別役割分担意識もその一つです。日本では、各人の個性や能力にかかわらず性別により担うべき役割が決まっているという考え方が根深く残っており、そのため、個人の希望や能力を正しく評価できなかつたり、

場合によっては「あなたは期待されていない」というメッセージを与えることにもなります。こうした意識は、新しい社会システムづくりを妨げ、あらゆる人々が社会参画して、その能力を十分に発揮することを阻んでいます。

近年の世界的な流れとして、オリンピック憲章のように差別的禁止が強く求められていたり、SDGs(持続可能な開発目標)にジェンダー平等の実現が挙げられ、ダイバーシティ(多様性)の推進により多様な人材を確保することで、イノベーション(変革)による新しい価値をもたらすことの重要性が指摘されています。

常総市の現状・未来は、今後、人口減少や高齢化、外国人人口の増加が見込まれる中、だれもが住みやすい地域づくりを進める必要があります。そのため、アンコンシャスバイアスにとらわれることなく、地域におけるダイバーシティを推進していく必要があります。

一人ひとりが同じ地域で暮らす仲間であり、日ごろからコミュニケーションを取りながら、災害時などの非常時には協力し合える関係づくりが大事です。そのためには、性別や国籍、年齢などで人を差別することがないように、そして自分のアンコンシャスバイアスに気づくために自分自身の言動を振り返ったり、これまでの地域の文化、習慣、考え方を一方的に押し付けられないよう心掛けることが大事です。

講師プロフィール 島田悦子氏

法政大学大学院経営学研究科修了。経営学修士。

専門は、女性教育・男女共同参画教育、人的資源管理、人材・組織マネジメント。

国家公務員として国立大学に入職。その後、国立婦人教育会館へ異動。

現在は、独立行政法人国立女性教育会館 事業課主任専門職員として、研修事業の企画・実施、プログラム相談等を担当。



男女共同参画講演会参加者の声

ユーチューブで講演会

女性団体じょうそう事業委員会

坂巻節子氏

デジタル機器の苦手な人をアナログ人間と呼ぶそうです。そんな私が男女共同参画講演会のユーチューブ視聴に、今回初挑戦しました。

申込みのためにメールアドレス、パスワードを何度入力してもうまくいかず、結局、息子に申込みをしてもらいました。

当日は自動的に視聴ができるものと思っていましたが、時間になっても始まりず、慌てて画面をタッチ。5分遅れで無事視聴することができました。まさしく生涯学習は大切と実感しました。



アンケート回答より

● アンコンシヤスバイアス、ダイバーシティの言葉は始めてでしたのでネットで調べてから講演を聞きました。常総市が住みやすくなる大切なことはシルバー会でもモットーとしていることです。フィンランドのような幸せの国になるべき努力をし、人口増加に繋がり若い人達が自慢できる街作りが必要だと思えます。

● 男女共同参画の基本的かつ最新の情報であるが、多くの人に伝える必要があると思った。自分の周辺は男女共同参画というところからよくわからない、断片的にしかわからないのか、といった意見がでる状況である。身近な問題としてみんなに考えてもらえる機会をつくれるよう行動したい。

又エツクのかたに話を聞く機会はなかなか得られないですが、オンラインだから参加できました。ありがとうございました！

● 今まで意識しなかった思い込みや偏見に気づききっかけとなった。それを取り払うことで、男女共同参画が進み、住みやすい地域になると思う。

男女共同参画推進事業

本市では、男女共同参画社会の実現に向け、固定的性別役割分担意識の解消を目的とした、男性の積極的な家事・育児への取組を進めるため男女共同参画推進セミナー等を開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、セミナーの開催を見送ったため、昨年12月に女性団体じょうそう事業委員会、常総市食生活改善推進員連絡協議会会員の皆様のご協力のもと、親子を対象とした、簡単でおいしいクリスマス向けレシピを市公式noteにて紹介しました。

常総市公式noteはこちらからご覧ください。



クリスマスリースチキン



ご協力いただいた(左から)入江氏、古谷氏、永野氏

女性団体じようそう事業委員会

会長職務代理者あいさし

楽しく学び合える会を目指して

女性団体じようそう事業委員会

副会長 海老原 和子氏

日頃より女性団体じようそう事業委員会の活動にご協力いただきましてありがとうございます。

当委員会設立当初から活躍されてこられた秋場ふぢ会長が昨年十月に急逝されました。秋場会長は目標とする先輩でした。本当に残念な思いです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年度もコロナ禍の影響で、これまでのように活動することができませんでした。そのような中でも、インターネットを活用する等新たな試みも始まっています。

昨今、女性の役割も大きく変わってきています。今後も社会情勢に応じた男女共同参画の啓発活動に取り組んで行きたいと思えます。コロナ禍が終息し、皆さんと安心して話し合いの持てる日が早く来ることを願っています。

これからも楽しく学び合える会にしていきたいので、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

女性団体じようそう事業委員会は、市内で活躍する女性団体の代表者や個人会員の方で構成される団体です。本市における男女共同参画の推進において、多岐にわたり活動・ご協力をいただいています。

役員紹介

副会長 海老原 和子氏
副会長 原田 好子氏
会 計 飯泉とみ子氏
監 事 寺田 由紀子氏
監 事 坂巻 節子氏

お悔やみ

令和3年10月31日、秋場ふぢ会長が逝去されました。長年にわたり常総市男女共同参画推進委員としてもご活躍をされ、男女共同参画の推進をはじめとして、多方面にわたってご尽力を賜りました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



「市長を囲む会」での秋場会長

女性相談のお知らせ

無 料
☎相談可

常総市では、女性の様々な悩みを臨床心理カウンセラーにご相談いただける機会をご用意しています。秘密は厳守いたします。一人で悩まず、安心してご相談ください。

相 談 日：4・5・7・8・9・11・12・1・3月 第3火曜日 10時～15時（各回4人）
6・10・2月 第3火・日曜日 10時～12時（各回2人）

相談時間：1回50分程度

対 象：市内在住、在勤、在学の女性

お問合せ・お申込み：発行元に同じ

詳細は市ホームページをご覧ください。



発行日
令和4年
2月10日
(木)

編集・発行

常総市 市民生活部人権推進課
〒303-8501 常総市水海道諏訪町3222番地3
☎ 0297-23-2111(代表)



編集協力

女性団体じようそう事業委員会